
タナケとホリウチとピルカワ

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タナケとホリウチとピルカワ

【Nコード】

N5786I

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

こんなスーパーあつたら潰れるよ。。。。

大手スーパー「チャスコ」ミルクチャイルド店。そこには不良バイトが山ほどいた。かつては、の話である。なにしろ、当時は今ほど不況でなかったので首になりにくかったのだ。今、こんなバイトがいれば即解雇であろう。

お肉の作業場。そこで、ステレオをガンガンに流す男。ご存知、ピルカワ。アホ山国際大学の学生である。将来の夢はAV男優になること。ちびで、茶髪。大学では、うんぴると呼ばれている。茶色だからうんこというわけだ。

理屈じゃないのよ 体がうずくのよ

私はあなたを 抱きしめたいのよ

奥田民生の当時のシングルである。ごつつへビーな曲。

ねずみ肉にラップをかけながら、お尻を振ってリズムをとるのは、ホリウチ。中絶大学の学生である。将来の夢は、金持ちの娘と結婚していい生活をする。太ってでかい。二メートルくらいある。いつもサングラスをかけていて、モヒカンだ。

「ふんふんふん。ふんふんふん」

「ホリウチ。歌詞知らんのか」

「知らん。ふんふんふん」

ピルカワは無視して、ねずみ肉を包丁で切つてく。

扉が開いた。

「ボインはーボインはわしのもんやでー」

月亭課長がウクレレを弾くのを真似しながら、入ってきたのは、タナケ。自動車破壊専門学校の学生である。将来は、自動車破壊の仕事がしたい。唯一まともな。

と思いつつ、こいつも怪しい。顔はアンパンマンにそっくりだが、

髪型がやばい。ちょんまげをしてるのだ。時代劇のファンなのだ。また扉が開いた。

「うるせえ！！！！」

「ひっ」

「濁原さん！」

お肉部門の主任だ。風俗好きで、アジアへ行き、児童を買ってたりする。奥さん公認というから日本も終わってる。

「ステレオ切れ！今から、録音するの！」

濁原さんはやせた体を前のめりにして、ラジカセに向かって元気よく叫んだ。

「いらつしゃいませ。いらつしゃいませ。本日もチャスコによっこそ。ようこそ。ただいま、お肉のコーナーではインドネシア産ねずみ肉が大変お買い得となっております。100グラム80円のところを100円。100円の大特価です！」

扉が開いた。

ちびのでぶい社員が入ってくる。妊娠しとる。柴犬数夫だ。キムジヨニルにちよつと似てる。

「こら。濁原ちゃん。高くゆつてどうすんねん！」

「あ」

「ちよつとオレ、家帰って寝るからあとよろしく頼むよ」

柴犬は、腹を叩いて出ていった。

「ちえ。オレが主任なのに。えらそうなでぶめ」

扉が開いた。食品課長だ。

微妙に髪型がへん。目がきらめくように輝いている。

「なんちゅうか本中華」

本中華というのは当時流行っていたラーメンだ。

「なに。課長」

「なんちゅうか本中華」

これが言いたいだけなのだ。ピルカワとタナケとホリウチは愛想笑いをした。

すると、調子に乗るのが課長の悪いところだ。

「なんちゆか本中華」

濁原はうぎくなつてきて、課長のズラを取った。

「い、いやあああああん」

そんなこんなで夜になる。

なんと今日は、高級松坂ねずみ肉を処分せねばならぬ。賞味期限が迫っているのだ。

捨てるのは惜しいと判断したピルカワは、ホリウチに言った。

「ホリウチ。デリカから出っ歯と赤犬を、魚コーナーから塚本君を呼んできて」

ホリウチはぴんときた。そうか、ピルカワくん、鍋にお湯を入れて松坂ねずみ肉でしゃびしゃびする気なんだ。タナケが叫んだ。

「ピルカワくん！まだスライサー洗い終わってないよ！」

スライサーというのは肉を切る機械。

「早くやれ！」

「わかった」

あわてすぎて、タナケの指が一本ぶつ飛んだ。

「うぎやあああああああ」

「げらげら。おもしろ」

「笑い事じゃないよ」

ちびでメガネの塚本君がやってきた。

「あれえ。みんなそろってるやん。赤犬くんも出っ歯くんも」

「おい。塚本。今からしゃびしゃびやるから、お前、外で見張りしとけ。課長に見つかったらうるさいからな」

「ええええ。ボクも食べたい」

「うるさい。早くしろ」

塚本君はうなだれて作業場の外に出た。

うれしい愉しいしゃびしゃびタイム（違法です）

「おい。赤犬。お前、少しずつとれよ」

「うるさい。めっちゃ腹へってんねん」

救急隊員がきた。

タナケを担架で運んで行った。

ホリウチは巨体の割に小食だ。

「あれ。ホリウチ。食べねえの。高級松坂ねずみ肉だぜ」

「ボク、ねずみはちよつと」

出っ歯はがつがつ食ってる。

「あ。こいつ。ナマで食べてる」

まったく卑しい。

まあ結局どうなったかというところ、かおり部長が来て怒鳴られた。

かおり部長は童顔だがあねさん風で怒らすとむちゃ怖い。

「あなたたち！こういうことなの、仕事もしないで！」

「くそう。塚本のやつ、ちくりやがった」

「あとで、ぼこしたる」

ホリウチ以外の男つまり、出っ歯、赤犬、ピルカワはかおり部長のことが大好きなので何も言えない。

赤犬など、怒られて微妙に勃起してる。

「ああん。かおり部長。もっと叱って」

「なによ！このど変態！」

塚本君はにこにこしていたが、後日、みんなに呼ばれ、強姦されたことは言うまでもない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5786i/>

タナケとホリウチとピルカワ

2010年10月21日21時01分発行